

---

雨

焰舞

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

雨

### 【Nコード】

N6754C

### 【作者名】

焰舞

### 【あらすじ】

ある梅雨の日の出来事。少女は少年に出会う。その出会いは、2人にとってとても大切な出会いになる。

(前書き)

初めての原稿なので、変な部分もあるかもしれませんが、今後とも  
よろしくお願いいたします！

ザーツ、ザーツ、ザーツ…

君と出会った日は今日みたいに雨が降っていた。

すべてを雨で消してくれるそうなら降りた日。

そんな土砂降りの日に君は、ぼーっと座っていた私に傘をさしのべてくれた。

そのとき、君を見て思ったの。

君と私は似ているって…

君と出会ったのは、そう私にとってとても思い出深いあの公園だった。

いつものように私はあの約束の場所である公園で待っていた。

いつものようにベンチに座って、ずっと、ずっと待っていた。

けどね、君と出会った日、ホントは待つのをやめようと思ったんだ。

ザーツ、ザーツ、ザーツ…

「何しちやるん？」

君のおかしなしゃべり方がなんだか、ホツとした。

あまり聞き慣れないしゃべり方なのに私は、安心して初めてあった君と話せた。

「…待ってるの」

「誰を？」

「誰かを。」

私がこんなことを言ったとき、君はどんな顔をしてたんだろう。

色あせたこの公園でも目立つ赤い傘を持っていた君。

君は何を思っただらう。

君には私がどう写っていたのだらう…。

「そのまま居たら、風邪、ひくぜよ？」

「…いいの。」

終わりにするからいいと思った。

だっぴすつと待ち続けて、結局今日も来なくて、泣くことになった  
ら雨が隠してくれるでしょ？

隠してくれる雨が好き。

けど、嫌いでもあった。

雨はすべてを流し、すべてを持って行ってしまっから…。

そんなことを思っていたら、いつの間にか私の周りだけ雨が止んで  
いた。

何でだろうと思って上を見上げたら、真っ赤な傘が目に入った。  
前を見ると君がいた。

雨で見えなかった君の顔が…。

「雨は…」

「…？」

「雨は嫌いじゃ。みんな、奪っていく。大切なものを全部。」

ザーツ、ザーツ、ザーツ…

君の目は、とても悲しい目だった。

君の身体は、何か、堪えているようだった。

まるで

まるで

まるで私みたいだった。

姿形は違う。けど一緒だった。  
傘を差していても私と一緒に雨に打たれていた。

「私も嫌い。すべてを流し、すべてを奪う雨が。  
なぜだろう、そのとき私は、自然に笑みがでた。」

いつもは、作って笑うのに、何でだろう…。

けど、今ならわかるよ。

君だから、

私だから、

笑えたんだって…。

ザーツ、ザーツ、ザーツ…

「何してるんですか？リアさん。」

「あつ、ハル君。ちょっと思い出してたの。」

「何をですか？」

「雅也と会った日のこと。」

「兄貴と？」

後日、彼が私の尊敬している先輩の弟だと知り、それ以来家族のよ  
うに仲良くしてもらっている。

あの日から私は、自然に笑うことができるようになった。

雅也のおかげかなっ！

そんな出会いのあった、中学一年生の梅雨の日だった…。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6754c/>

---

雨

2011年1月16日05時42分発行